

大学だけで終わらない神学の学び 卒業生が現場の原点としての東神大を語る座談会

自分のために命を捨ててくださった方のために生きたい

大住：お二人は東神大を卒業され、牧師として教会に仕えられているわけですが、いつごろ、どのようにして信仰に入り、伝道者として献身する決意をされたのでしょうか。

道家：私は名古屋の出身なのですが、最初、水戸の茨城大学人文学部で心理学を学びました。信仰に入ったのは20歳のころで、洗礼は水戸教会で受けました。そして卒業を前にして、当時、やはり始めていた牧会心理学を勉強しようとして京都の同志社大学に願書を出しました。ところが、何か不手際があったのか、神の摂理だったのか、届いていないと言われたのです。それで1年棒に振って、名古屋に戻っている考えながら、親が通っていた金城教会に行くようになりました。そこで牧師に勧められ、献身に至ったということです。しかし教会にお仕えするという思いはあまりなく、牧師になってからも心理学を勉強できるからと言われて神学校に入ったのです。振り返ってみると、非常に邪道な入り方ですね。

小椋：私は、2002年のイースターに洗礼を受け、それから数年して東京神学大学に入りました。家族はクリスチャンではありませんでしたが、母と祖母は横浜英和の出身で、私自身も名古屋のキリスト教を基盤とする学校に行き

ました。そこでキリスト教と出会ったのです。献身の決意は、洗礼を受けたのとほぼ同時にしていました。私たちのために命を捨ててくださった方がいるということを受け入れた時、私自身もその方のために生きたいと思ったのです。

牧師という職業だからなのか、大変とか忙しいとか感じない

大住：お二人とも、動機はともかく、信仰に入られてから比較的短い期間で献身を決意されたようですね。では、いま牧師としての1週間は、ど

のような生活をなされているのかご紹介いただけますか。

道家：日曜日は礼拝の奉仕をして、それから教会の長老会や、週によっては委員会などに出席。また、西東京教区が主体となって立ち上げた郊外伝道のための立川伝道所の責任者をしていますので、毎日曜日、その夕礼拝に奉仕をしています。教団には、月水金の週3日は顔を出すことになっていますが、教会の集会や教区の仕事があればそちらを優先しています。火曜日と木曜日は教会にいて牧会や教会の事務で、祈禱会は木曜日に行い、火曜日に



日本基督教団 知立伝道所

小椋実央 牧師 (おぐら みお)

金城学院大学卒業後、社会人経験を経た後に東京神学大学学部3年編入。2009年に修了後、日本基督教団瀬戸永原教会において1年間伝道師として奉職。2010年より現任地へ。2011年冬、牧師按手。

聞き手
大住 雄一
教授



日本基督教団 井草教会

道家紀一 牧師 (どうけのりかず)

茨城大学人文学部人文学科心理学専攻を卒業後、東京神学大学学部3年に編入。1989年大学院修士課程を修了後、日本基督教団小松島教会主任担任教師に就任。1991年秋、牧師按手。1997年4月から現任地。

は月に1回聖書会があるなど、1週間全部埋まっていますが、大変とか忙しいとかあまり感じないですね。

小椋：私は、まず日曜日は礼拝のご奉仕、説教は毎週あります。体がもちませんので、月曜日は丸1日休むようにしているのですが、地区の行事が月曜日に入ることがあって、なかなか難しいのが実情です。火曜日は、祈禱会や説教の準備を始めます。そして水曜日が教会の祈禱会、木・金は母校の中学校で聖書科の授業を受け持ち、土曜日は説教の準備です。昨年からは、伝道所の親教会である中京教会で、授業の前

後に祈禱会や週報印刷などの奉仕をしています。

教会は神によってつくられた人間の健やかな生き方を御言葉で説いていく

大住：小椋先生は、牧師になるということに対してどのようなイメージをお持ちでしたか。

小椋：もっと教会につきっきりになると思っていました。こんなにいろいろとすることがあるとは思ってもいなかったのです。赴任して2年目から、地区や教区の委員をしています。今は、地区の婦人会に属していて、教区の伝道部

と教区通信の委員でもあり、教区通信の委員会は割と頻りに集まりがあります。せめて一つの委員会だけならそれに集中できるんですが、そういう訳にもいかないのが現状です。教会も、事務の仕事がとても多いので、錯覚してしまうことがあります。というのも、私はもともと勤めをしていたので、パソコンに向かって何か事務仕事をしていると、牧師としてすごく務めを果たしているという気になってしまうんです。実はそれほど大したことはしていないと、反省的に思っています。そんなことより、ほんとうは受洗者が一人でも多く生み出される努力をしなければいけないのですが、神学校を卒業する前は、事務の仕事だとかを全部ではないにしても、いろいろ担ってくださる方がいる教会に自分は仕えるだろうという勝手なイメージを持っていたんですが、今は、現実にはその大半を私が担っています。本当はそういう奉仕者をもっと育てていかなければいけないのだろうとは思っています。

大住：そういう奉仕者を育てるのが、牧師の仕事の一つとして大事なことなのですね。道家先生はいかがですか。

道家：やはり臨床心理学から入っていったので、実際に悩む人とどうやって一緒に歩いていけるかということを考えていました。ただ最終的に気づいたのは、教会は病気の人を分類してその人と関わることが主ではないなということ。よく「健やか」ということが言われますけど、教会は神によってつくられた人間の健やかな生き方をやはり御言葉で説いていくしかない。最終的には御言葉で秩序つけられた人間の健やかさに導いていかなければいけない。そこまで本気でつきあうのが牧師だと思うんですけども、そ